

千葉日報報道（平成 24 年 3 月 10 日～5 月 10 日）

災害	大震災ちば一年	県内にも大きな爪痕を残した東日本大震災から 1 年。地震直後の街並み被害、市原市のタンク爆発をはじめ、津波を受けた漁港、東京湾岸の液状化現象。あの日の県内被害地と今の素顔をカメラで伝える。	22 面	3.10
介護	孤独死	独居高齢者 10 年で 7 割増、自治体も取り組み模索。	21 面	4.5
医学研究	遺伝子診断で重症予測	国立障害者リハビリテーションセンターの岩波将輝医師遺伝子診断予測で重症予測。突然異変の型と病気進行との関係を調べた。	19 面	4.6
医療技術	人工内耳	新生児で人工内耳手術は 2 歳前後が多い。ろう学校生徒人工内耳を装着しているのは 1000 人を超え、増加中。	10 面	4.8
漢方医学	下痢をとめ治す漢方	半夏瀉心湯の構成生薬は、半夏、おうごん、黄連、人参、たいそう、乾草、かんきょう。胃腸の機能と気力、体力を増進するのに役に立つ。	10 面	4.8
予防医学	県民健康、栄養調査	成人男性 3 人に一人肥満、20 代女性の喫煙が急増。	1 面	4.10
予防医学	手軽にできる有酸素運動	効果高いウォーキング 入念な準備で痛み回避。	15 面	4.13
医療技術	統合失調症の再発を予防へ	1 回の筋肉注射で 2～4 週間じわじわと溶けていき、効果が長続きする抗精神病薬。	6 面	4.15
漢方医学	食欲で元気に六君子湯が効果	六君子湯の構成生薬はぶくりょう、半夏、しょうきょう、ちんぴ、かんぞう、たいそう、人参、じゅう。ぶくりょう、はんげ、しょうきょうは妊娠時のつわり、ちんぴ、かんぞうは吐き気、嘔吐、たいそう、人参、じゅうは気力、体力回復用。	6 面	4.15
栄養	骨粗しょう症	骨粗しょう症予防、食事や運動カルシウム、ビタミン D、ビタミン K、散歩やジョギング一日 30 分以上、週三回以上。	8 面	4.15
感染症	エボラ出血熱	患者の体にふれると、感染する確率が高い。感染したときの死亡率は 50～90%。アフリカでは、死んだ人の体にすがって、お別れをすることがよくある。だからエボラ出血熱が広がりやすい。	16 面	4.18
病院経営	館山安房地域医療センター	新救急棟が完成、質高い北米型医療目指す、循環器カテーテルなど一部三次救急にも対応。	9 面	4.18
医学研究	幹細胞移植で毛が生えた	17 日付の英オンライン科学誌ネイチャーコミュニケーションズに発表。	19 面	4.18
予防医学	不活化ワクチン初承認へ	ポリオ、秋から無料接種	19 面	4.20
医学研究	特効薬の開発急ピッチ	EGFR の変異にはゲフィチニブが HER2 の変異ならラパチニブが有効だ。	17 面	4.20

	安価診断キットも			
医療対策	首や血管病変にも注意を	首の筋肉の緊張や頸部交感神経の興奮内耳とともに平衡感覚をつかさどっている脳幹や小脳に影響。	6面	4.22
病院経営	新たに子供の貧困対策	地域周産期母子医療センター認定、県内7施設目	1面	4.22
介護	千葉県高齢者保険福祉計画、特養定員4割増へ、	埼玉県に次いで全国2番目のスピードで高齢化が進む千葉県では、支援や介護が必要な人は14年度に22万2836人に膨らむと推計、認知症コディーターを13年度末までに2000人養成する。	1面	4.23
予防医学	高齢層に広がるビリヤード	認知症予防に効果的	15面	4.24
医療対策	自殺予防因子	地域社会の緩やかな結びつき、排他的傾向が弱い、他者への評価は人物本位、主体的に政治に関わる、助け求めることに抵抗小さい。	6面	4.29
漢方医学	五十肩	二朮湯の構成生薬はびやくじゅつ、そうじゅつ、はんげ、しょうきょう、ぶくりょう、ちんぴ、かんぞう、こうぶし、きょうかつ、いれいせん、てんなんしょう、おうごん。痙攣や痛みを抑制。	6面	4.29
栄養	赤ちゃん	5、6か月頃ゴックン期、7、8か月頃モグモグ期、9、11か月頃カミカミ期、12～18か月パクパク期。	8面	4.29
病院経営	県立7病院の中期経営計画	総収支、黒字拡大目指す。病院事業では診断報酬のプラス改定や患者数が増加で、10年度に17年ぶりに黒字転換。赤字経営が続く東金病院が14年度に廃止され、県立病院は6施設に減少。総収支の黒字、12年度の6億7600万円から16年度には16億4600万円までの拡大を目指す。	1面	5.1
病院経営	旭中央病院	山武地域からの救急搬送、脳卒中受け入れ停止。医療過疎に不安拍車。4月からは日本医科大学千葉北総病院や成田赤十字病院、千葉大学医学部付属病院などに搬送。患者集中による医師負担の軽減が理由、県東の中核病院にも押し寄せた深刻な医師不足。	19面	5.1
介護	高齢者一人一人に避難計画 介護事業者が誘導担当	大規模災害で連携し、高齢者一人一人について安否確認や避難誘導の計画を策定。	1面	5.2
感染症	鳥インフル	毒性の強いH5N1型のウイルスが遺伝子変異により、哺乳類のフェレットで感染力を持った。変異は計4カ所。	19面	5.3
予防医学	県の生活習慣調査	3人に2人が心の健康不安、目立つ20～40代のストレス、解消できない、30.1%	1面	5.9
医療対策	不妊治療	広がるがん患者の卵子保存、副作用による不妊備え。	11面	5.10

